

障害者や高齢者のお手伝いは自然な気持ちで

心遣いの基本マナー

マナー1 まず、一声掛けてください

困っている人を見掛けたら、声を掛けてみましょう。



マナー2 いきなりは、禁物

人によっては、手助けを苦々しく思う人もいます。黙って相手の手を引っ張ったり、車いすを押したりすることは、失礼であるだけでなく、相手を驚かせることになります。



マナー3 何をするのがよいか、聞いてみましょう

人によって困っている状況が異なるため、まず、何をするのがよいか、どのような方法がよいかを聞いてみましょう。



「坂道や歴史的な建造物が...」
「心のパリアフリー」を
「心のパリアフリー」を広げていこう！
「心のパリアフリー」や無神経さが存在する限り、真に人に優しい街は実現できません。
市では、今後も、将来を見据えた福祉のまちづくりを着実に進めていきます。しかし、何より大切なのは、健常者が障害者を取り巻く障壁を自らの問題としてとらえるということ。そうした理解と認識を広げていくことが、あらゆる障壁を取り除いていく上で、一番の力になるのです。DP I 札幌大会の開催を間近に控え、そんな思いで、皆さんもできることから始めてみませんか。

すべき役割を明確にしているのが特徴です。
こうした福祉のまちづくりが進む一方で、「障害者専用」といった視点に基づく整備は、かえって差別感や疎外感を生むことにつながるという指摘もあります。このため、市では、特定の人の利用を想定したものではありません。初めからだれにとっても使いやすい施設や道具を作るという「ユニバーサルデザイン」の考え方に基づくまちづくりの調査・研究も進めています。

少ない札幌の都心部は、日本の大都市の中でも、ハード面の整備は進んでいる方だと思えます。しかし、街に出ると、障害者を特別な目で見ると、障害者の駐車スペースに平気で車を止めるといった光景がまだまだ見受けられます。そうした「心のパリアフリー」や無神経さが存在する限り、真に人に優しい街は実現できません。



温水シャワーなどを完備したオストメイト対応型身障者用トイレ。全国的にも例がなく、多くの見学者が訪れています。

また、「ノースウインド」の田中さんは、「障害者に優しいと言われる欧米との差はちよつとした『声掛け』が習慣として根付いているかどうかではないでしょうか。でも、最近はコンビニなんかに行くと、若い人がすつとドアを開けてくれることも多いんですよ」と話します。

ユニバーサルデザインの基礎知識

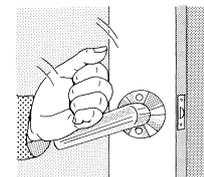
基礎知識

ユニバーサルデザインの提唱者は、アメリカ・ノースカロライナ州立大学の故ロナルド・メイイス教授です。身体障害者であった彼は、「できうる限り最大、すべての人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること」と定義しました。障害を取り除くという「パリアフリー」を一步進め、年齢や性別、国籍などにかかわらず、最初から、だれもが利用しやすい設計にしていこうという考え方に立っています。一口に障害と

言っても、視覚、聴覚、肢体、内部、知的などさまざま。障害の程度にも差があります。また、健常者であっても、けがや妊娠、重い荷物を持つなど、一時的に「障害」のある状況になり得ますし、初めての土地に行けば移動制約という障害があることにもなるでしょう。「すべての人に人生のある時点で何らかの障害がある」ということを発想の起点としているのです。
アメリカや北欧諸国を中心に広がりつつあるユニバーサルデザインの理念。日本でもここ数年、注目を集めており、この考え方を取り入れた商品開発や施設整備も進められるようになってきています。使い手主体のだれもが使いやすいユニバーサルデザインは、これからの街づくりや物づくりの基本です。

たとえば

ベビーカーや大きな荷物があっても快適に利用できる大きなトイレ



簡単な操作でドアの開け閉めができるレバーハンドル式のノブ

髪を洗いながら区別ができるよう凹凸を付けたシャンプーやリンスの容器



文字表示機能やメール機能の付いた携帯電話

すべての利用者に便利なセンサー付きの自動ドア

